

公益財団法人 8020 推進財団

令和 5 年度 歯科保健活動助成事業報告書 [抄録]

<p>1. 事業名： 歯科衛生士をめざす学生に対する禁煙支援教育</p>
<p>2. 申請者名： 稲垣 幸司</p>
<p>3. 実施組織： 愛知学院大学短期大学部</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>本邦の成人喫煙率は、2001 年では男性 48.4%、女性 14.0%であったが、徐々に減少し、2022 年には男性 25.4%、女性 7.7%となり、ほぼ半減してきている。しかし、2013 年以降、加熱式タバコ (Heated Tobacco Products、HTP) が普及し始め、その後、4 種類の HTP が、次々と全国販売され、使用者が急増している。また、2019 年国民健康・栄養調査では、紙巻きタバコに対する HTP の割合は、男性 27.2%、女性 25.2%を占め、両者の併用者が男性 6.9%、女性 4.8%と現れてきていることがわかってきている。</p> <p>そこで、本研究では、歯科衛生士をめざす学生に対して、加熱式タバコ、水タバコを含めた喫煙状況、喫煙、受動喫煙に対する認識等を把握した上で、喫煙に関する正しい知識、禁煙支援教育を行い、将来の禁煙支援を担う歯科衛生士を育成することの一助とすることである。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>対象は、2023 年 4 月時の愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科学生 325 名 (女性、1 年生 108 名、2 年生 103 名、3 年生 104 名、専攻科生 10 名) である。2023 年 5 月～7 月時に、喫煙と受動喫煙に関する web 質問票調査を実施した。なお、調査項目は、喫煙状況、禁煙に対する行動変容ステージ、HTP の認知度、HTP の認識度、加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (Kano Test for Social Nicotine Dependence、KTSND)、医療従事者の喫煙に対する見解、医療機関の禁煙に対する認識、受動喫煙曝露状況についての見解である。その結果、喫煙状況は、紙巻きタバコ喫煙者 4 名 (1.3%)、HTP であるアイコス喫煙者 4 名 (1.2%)、水タバコ喫煙者 5 名 (1.6%) となり、受動喫煙曝露者は、117 名 (36.3%) となった。また、KTSND 得点中央値は、12.0、受動喫煙曝露状況別では有意な差異がなかったが、喫煙状況別では、喫煙未経験者 11.0、試し喫煙者 16.0、前喫煙者 10.5、喫煙者 20.0 となり、喫煙未経験者は、喫煙者や試し喫煙者に比べ有意に低かった。</p>
<p>6. 実施後の評価 (今後の課題)：</p> <p>本学の継続的な禁煙教育は、HTP や水タバコを含めた喫煙率に好ましい結果をもたらしていた。しかし、本研究対象学生の KTSND 得点は、受動喫煙非曝露群と曝露群に有意な差異がなかったが、KTSND 得点規準範囲 9 以下の望ましい者は全体の 37.0%で、喫煙に対して正しい知識が欠如している者が多かった。一般的には、KTSND 得点は、受動喫煙にさらされる機会がある者は高く、喫煙にやや寛容になる傾向があることが報告されている。</p> <p>したがって、禁煙支援や口腔衛生を担う歯科衛生士として、喫煙、受動喫煙に関する正しい認識を定着させるために、継続した禁煙支援教育が重要であると考えた。</p>